

正誤表

P175

問1 [要介護状態区分]

誤 → 正
要介護5 (66) → 要介護5 (34)

アンケート報告書の見方 (補足説明)

1. 回答総数について

今回のアンケート調査は、市民アンケートを一般高齢者と若年者の2区分で、介護保険認定者を在宅要支援認定者、在宅要介護認定者、施設サービス利用者の3区分で実施しました。この5種類の調査の回収数は、下表のとおり（報告書1ページ）です。

なお、前回の平成17年調査は、市民アンケートと介護保険認定者の2種類で調査を実施しています。そのため、経年比較をする項目については、比較対象を同様とするために、前回調査の種類に合わせ、市民アンケートは、一般高齢者と若年者を合算し、介護保険認定者は、在宅要支援認定者と在宅要介護認定者を合算しています。（報告書2ページ）

調査の種類	調査対象者数(A)	有効回収数(B)	回収率(B/A)	回収数小計(※)
(1)市民アンケート・一般高齢者調査	2,000人	1,276人	63.80%	1,635人
(2)市民アンケート・若年者調査	1,000人	359人	35.90%	
(3)介護保険在宅要支援認定者調査	600人	388人	64.70%	1,218人
(4)介護保険在宅要介護認定者調査	1,400人	729人	52.10%	
(5)介護保険施設サービス利用者調査	200人	101人	50.50%	

※ 経年比較のため、平成17年調査の区分に集計したもの

2. 設問による回答数の違いについて

回答数のnは、その設問への回答数を表します。（報告書2ページ）

例えば、一般高齢者調査（報告書の右上に記載）の1の生きがい（報告書10ページ）の903人は、問2-1に対する回答数で、問2-1は、一般高齢者調査の問2の1276人のうち、生きがいを感じていると回答した人に追加質問したもの

です。(追加質問は、報告書上、→を記載し、追加質問の関係をわかりやすくしています)

3. クロス集計について

性別、高齢者区分、ひとり暮らし、日中独居、要介護状態区分など、報告書上、[]をつけて記載しているものは、その質問の回答と、他の項目をクロス集計したものです。

なお、クロス集計の場合は、クロスする項目に無回答の人がいますので、各項目の回答者数より少なくなる場合があります。

例えば、在宅要支援認定者調査の問 28 の主な介護者の要介護状態区分（報告書 115 ページ）は、クロスする項目の要介護状態（報告書 79 ページの問 1）を回答していない人が 3.4%存在するためです。

また、ひとり暮らしや日中独居などは、その状態をわかりやすくするために、文章のみならず、その項目の表を参考に記載している場合があります。その場合は、クロス集計全体の表は記載していません。

例えば、在宅要介護認定者調査の問 4 の外出の頻度のひとり暮らしと日中独居について（報告書 127 ページ）は、F4 の同居家族の質問（報告書 122 ページ）から、ひとり暮らしと回答した人のみを、また、F4-1 日中の独居の質問（報告書 123 ページ）から、いつもあると回答した人のみを記載しています。